

から知ったそうである。筆者が何故に警察に調べられなければならないのか分らなかった。生年月日や渡航の理由や仕事の内容はすべて文部省に報告済みである。この調査は公安警察からのものらしく、ソ連での交友関係、帰国後の交友関係、理解できる言語の種類、嗜好品とその量、妻の里の住所と家族構成、柔道か剣道がやれるか否か、等々あまりに沢山聞かれたので詳細は忘れてしまった。自分自身のこと以外は責任のとれない事柄であり、特に交友関係などは全く答える必要のないことである。

アメリカなど所謂資本主義諸国からの帰国者はドルの不正所持が考えられる時だけ調査するそうであり、一方の共産主義諸国からの帰国者には例え短期間の旅行者であってもこのような身上調査をするのだそうである。こうしたことはあまりに奇怪なことなのでその真意を尋ねたところ、70年代対策の一環であるらしい返事を得た。帰り際に、この家から電波でも出るようなことがあったらまた来るとのこと、まるでスパイの容疑者になった訳である。あまりの馬鹿げたことに、日本が本当に自由主義国と言えるのか、と行き交う人々に問いかけたい衝動

にかられた。一日も早く真の国際科学協力の出来る日が来て欲しいものである。こうした非常に後味の悪い事件があってから、大学紛争が起り、いつしか報告書を書く時機を失してしまっていた。遅ればせながら、ここにソ連の研究状況のあらましでも紹介できたことになれば幸いである。

ソ連への出張に先行って、いろいろとお世話いただき、また出張中も常に激励していただいた名古屋大学の磯野謙治教授、現在気象大学校教授の駒林誠博士に心から感謝する。また筆者を常に励ましていただいた名古屋大学の武田喬男助教授に心から謝意を表する。

ソ連滞在中特に御厄介になった Морачевский 博士、 Качурин 博士、 Карцивадзе 博士に、またロシア語の指導をしていただいた Н.А. Воронцова 先生、入院中の主治医 С.С. Борисовна 先生、日常生活でいろいろめんどうを見ていただいた Х.Ж. Ким さん始め多数の方々心から感謝する。

最後に第2節の教育研究機構の執筆に当って再三煩わせたノボシビルスク工業大学助教授 В.В. Семёнов 博士に、感謝する。

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
北海道支部研究発表会	昭和45年12月3日	日本気象学会北海道支部、札幌管区	札幌管区気象台会議室
第17回風に関するシンポジウム	〃 12月10日	日本気象学会外8学会	気象庁講堂
航空気象月例会	昭和46年2月26日	東京航空地方気象台	東京航空地方気象台 研修室
春季講演会	〃 3月25日	日本気象学会	海洋研究所
THIRD INTERNATIONAL CONFERENCE ON WIND EFFECTS ON BUILDINGS AND STRUCTURES	〃 9月6～11日	(気象学会後援)	東京
大気循環と長期予報月例会	〃 2月25日	気象庁予報部	気象庁内
レーダー気象月例会	〃 2月17日	気研台風研究部	気象庁内